

強姦罪見直しに係る論点の整理

平成 24 年 2 月 13 日

首都大学東京 木村光江

1. 性的自由に対する罪

○ 1970 年代の動き ← ヨーロッパの議論の影響

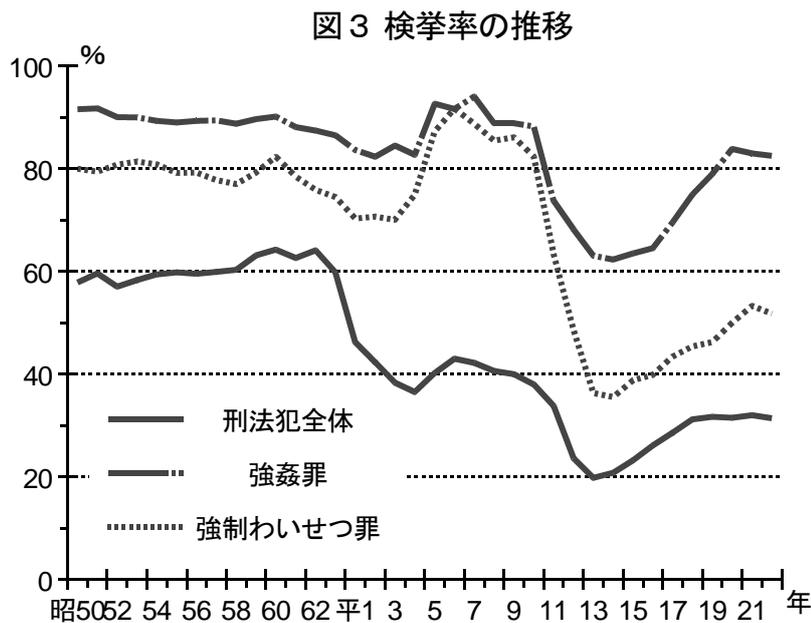
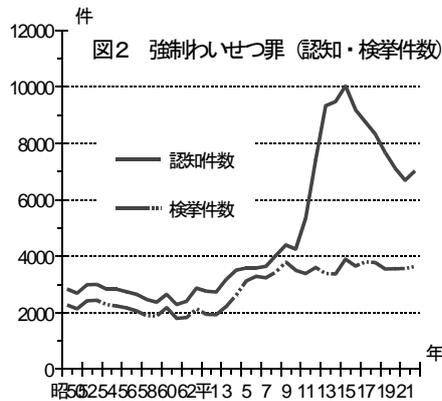
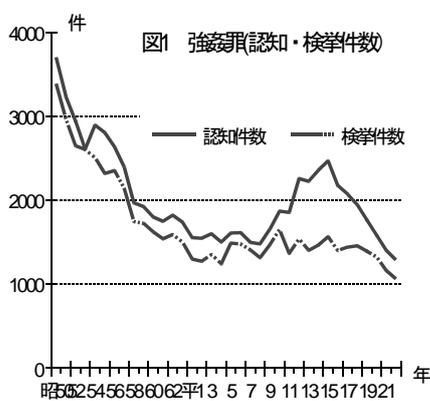
○ 性的自由に対する罪とする意味

- ・ 現代では、倫理・道徳に対する罪であるとする見解はない
- ・ ただし、純粋に「自由に対する罪」であれば、「暴行・脅迫」要件は不要？
- ・ 準強姦罪，準強制わいせつ罪 — 暴行・脅迫を要件としない
- ・ 「同意」を重視することの意味

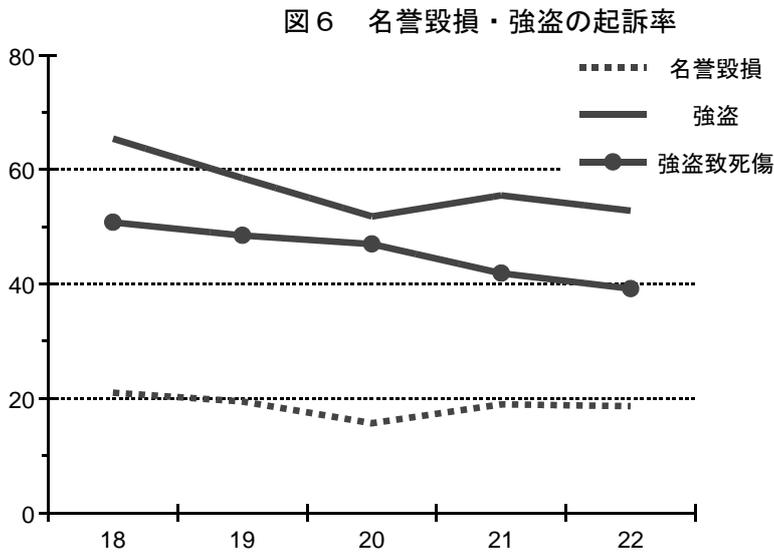
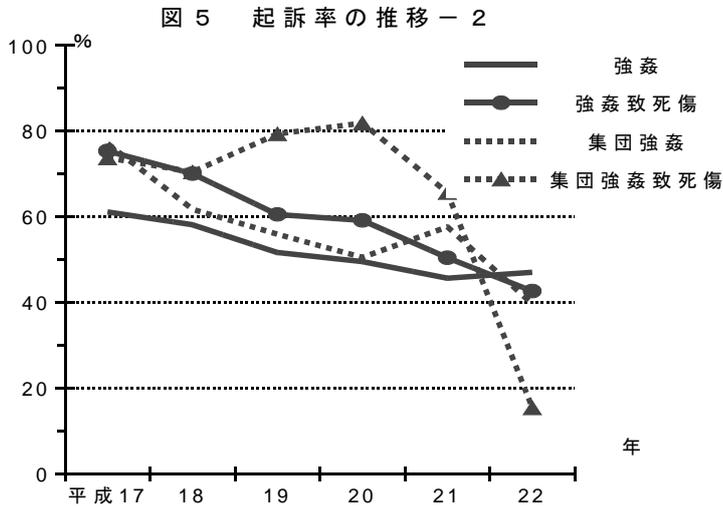
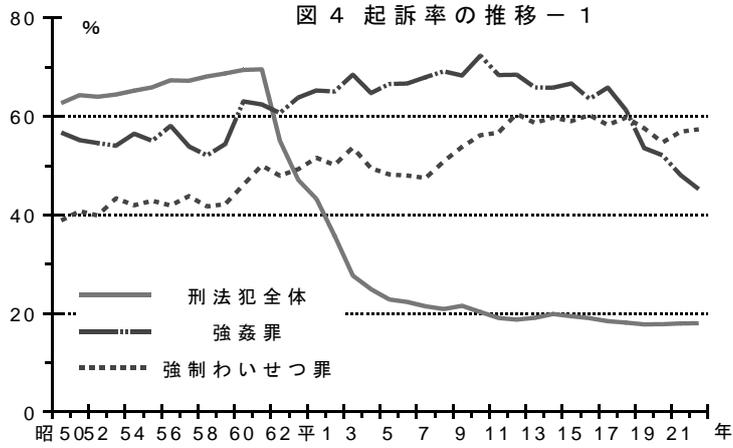
⇒ 少なくとも，現行法は純粋な「自由に対する罪」ではない

2. 統計から見た強姦罪，強制わいせつ罪

○ 認知・検挙の状況 → 検挙率は相対的に高い



○起訴の状況

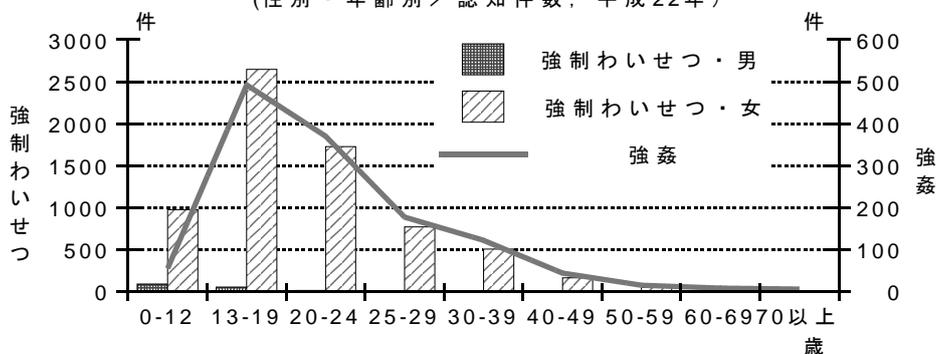


3. 性交同意年齢

○ 10代の被害

図7 強姦・強制わいせつの被害者

(性別・年齢別／認知件数，平成22年)



○ 青少年保護育成条例，児童買春処罰法との関係（18歳未満）

○ 改正刑法草案(昭和49年) 一 個人法益，14歳未満

(幼年者の姦淫・わいせつ)

298条1項 14歳未満の女子を姦淫した者は，2年以上の有期懲役に処する。

2項 14歳未満の者にわいせつの行為をした者は，6月以上7年以下の懲役に処する

4. 特別類型

○ 改正刑法草案

(被保護者の姦淫) → 新設

301条1項 身分，雇用，業務その他の関係に基づき自己が保護し又は監督する18歳未満の女子に対し，偽計又は威力を用いて，これを姦淫した者は，5年以下の懲役に処する。

2項 精神障害の状態にある女子を保護し又は監督する者が，その地位を利用して，その女子を姦淫したときも，前項と同じである。

(強姦)

296条1項 暴行又は脅迫を用いて，女子を姦淫した者は，2年以上の有期懲役に処する。

2項 女子が精神の障害その他の理由により抗拒不能の状態にあるのを利用し，又は女子を抗拒不能の状態に陥れて，これを姦淫した者も，前項と同じである。

○ 加重類型か，減輕類型か

① 加重類型—地位利用：親等による場合？

② 暴行・脅迫による場合（現行の強姦，強制わいせつ）

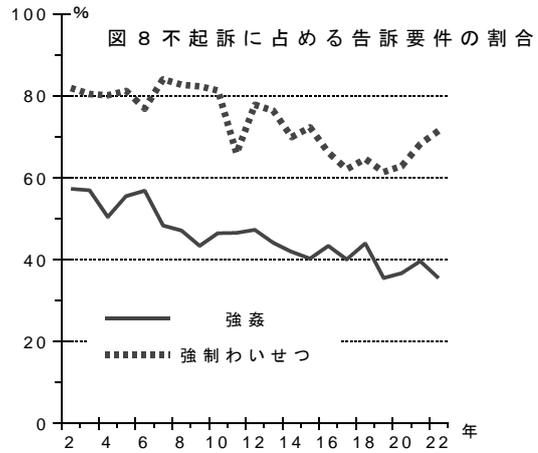
抗拒不能に乗ずる場合（現行の準強姦，準強制わいせつ）

③ 減輕類型—地位利用：身分・雇用等による保護者による場合 → 改正草案 301条

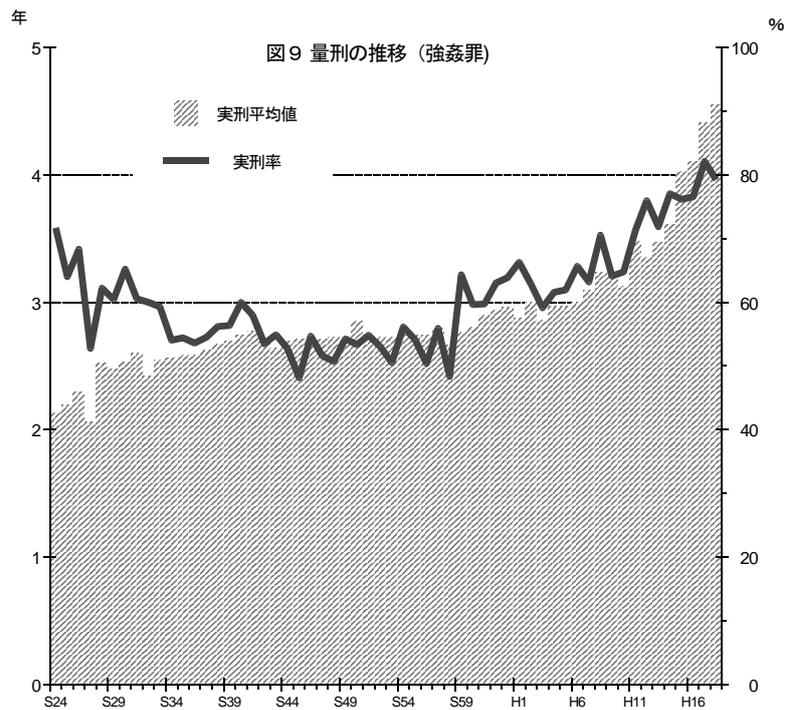
5. 親告罪

○起訴率の推移

→告訴要件の問題



○量刑の状況 →重罰化の傾向



○検討すべき問題

- ・「被害者の名誉の保護」に反しないか
- ・告訴期間の撤廃との関係
- ・国民の意識の変化